

2024年ガルフストリーム読者アンケート 結果を踏まえた今後の対応について

読者の皆様へ、

平素はガルフストリーム誌をご愛顧いただき、ありがとうございます。5月に実施しました「読者アンケート」には、多くの方々からご回答を頂きましたことに感謝いたします。7月号にて、アンケート結果をご報告させて頂きましたが、今回も多くの有用な情報が得られ、また、親身なご意見を頂きました。数か月かけて、編集部や商工会の理事委員会でもご意見を頂き、以下の通り、今後の対応案をまとめましたのでご報告いたします。

当面は以下の対応を進めていきますが、適宜、改善を進めていきたいと思っておりますので、引き続き、ご意見やボランティアでのご参加など、ご支援、ご協力を賜れば幸いです。

(編集委員長 稲田徳弘)

【アンケート結果報告について】

7月号にて、アンケート結果はご報告済みではありますが、ご参考までに結果の概要を再掲いたします。

1. 回答数

会員宛てのアンケート回答依頼のメールは1回、約1000名の会員宛てにお送りしました。回答数は60件、内、会員とご家族が53件でした。

2. 全体的な感想

概ね(8割程度の)、好意的なご回答を頂きました。読んだことがない方は5%(3名/60件)。ご家族での共有は、単身、Yes/Noが1/3ずつでした。

3. 人気記事ランキング

前回同様、「旅行記」や「ヒューストンウォーカー」、「レストラン紹介」など、日頃の生活に関連した記事が上位に入りました。「安全・災害対策」や「お助けマップ」、「テキサスメディカル」などの緊急時に参考になる記事も人気があり、多くのご意見を頂いた「駐妻日記」は、長きにわたって大好評の連載です。

4. 今後もっと取り上げてほしいカテゴリ

こちらも前回同様、「レストラン紹介」や「現地イベント情報」に根強い人気がある一方で、今回は、「政策関連」、「経済動向」、「脱炭素」といったビジネス関連記事へのご希望が多かったです。

5. ガルフストリームを知った経緯

商工会関連が9割で、補習校や知人からのご紹介が1割、その他は、ご主人が退職された元会員のご家族の方でした。

6. フィードバック・感想

9件のご意見を頂きました。要約すると、好意的なご意見の他には、①相当の労力に対して、(生活)情報は広報誌には不要になってきているので、発行頻度を減らしてはどうか、②駐妻日記での(強制的な)次の執筆者探しは苦痛、③駐妻日記のタイトルは不適切、④どこで手に入れられるか分からない、ということと理解しました。

【今後の対応について】

上述の6. フィードバックの4点に加えて、⑤(読者の意向の偏りを減らすためには)アンケート回答者数を増やす努力が必要、⑥(ご希望に沿って)ビジネス関連記事は一層積極的に取り入れるべき、と考えました。

以下、ご指摘の順番に改善案をご紹介します。

① 相当の労力に対して、(生活)情報は広報誌には不要になってきているので、発行頻度を減らす

実際に、寄稿の依頼から校正、レイアウトの修正など相当の労力をかけて、発行までの手順を踏んでおります。これは、寄稿頂いた方への敬意をもって、公開される文章がおかしなものにならない様にしたという編集委員の心遣いの表れでもあります。そもそも、ガルフストリームは、商工会の広報誌であり、商工会の活動を会員の皆様に周知することが第一の使命と考え、毎月の記事の構成を行っており、人気の生活情報は、商工会会員の生活向上を意図した補足的なもので

す。商工会活動をタイムリーに周知するためには、月刊誌であるべきと考え、発行頻度の変更は行いません。

他方で、どのような作業がなされているか、編集作業の実態を読者の皆様にご紹介する機会もあった方が、ボランティア参加の検討のためにもよい、という意見もありましたので、裏方の実情をどこかで掲載したいと考えております。

② 駐妻日記での強制的な次の執筆者探しは苦痛

こちらのご意見には大変申し訳なく、平にお詫び申し上げる次第です。

編集委員会としては、強制的に次の執筆者探しを寄稿者に依頼したことはなく、拒否できる仕組みでお願いをしていたつもりでした。実際に、次の執筆者が見つからなかった場合に、編集部にて別の方を探して繋げたこともありましたが、ご依頼において明確に拒否ができる旨を明示しておらず、誤解を生んでしまっていたと思います。今後は、次の執筆者探しが拒否ができることを明確にして、寄稿依頼活動を進めます。

③ 駐妻日記のタイトルは不適切

コンテンツ自体は人気記事であり、タイトルに問題があると理解しました。ヒューストンで生活する人の生活日記という内容を表す名として、先月の8月号から、「ヒューストン日記」と改めさせて頂いております。

④ どこで手に入れられるか分からない

今年度より、完全デジタル発行として、PDF形式での専用ホームページ掲載の形をとっております。PDFではスマートフォンで読みづらいというご意見もありますが、例えばHTML形式での掲載や、図書館など一部の施設での紙での配布など、掲載方法の変更を行うにはコストもかかることもあり、商工会理事委員会などでも協議の上、改善を進めてまいります。

⑤ アンケート回答者数を増やす努力が必要

統計的にサンプル数が少なすぎると全体の意向を把握することができません。少しでも回答者数を増やすため、商工会理事委員会などでも協議の上、①(抽選でギフトカードが当たるなどの)インセンティブを設定する、②商工会イベントと並行して行い、ブースにおいて紙での回答ができるようにする、③周知のため、アンケート実施中のメール連絡回数を増やす、などの対応を次回のアンケート実施時に取り入れることとします。

また、ホームページへのアクセス数を分析するなど、アンケート以外の方法で読者のご意向を把握する方法も検討していきます。

⑥ ビジネス関連記事は一層積極的に取り入れる

これまで同様、商工会理事委員会などで会員企業へ依頼して、ビジネス記事の寄稿をより一層集め、拡充します。

なお、アンケート結果を踏まえて今後の掲載記事を検討しておりますが、ご要望が少なかった記事も掲載しないわけではありません。商工会の活動を報告する広報誌としての役割を念頭に、今後とも掲載記事の適切な選択に努めてまいります。

ボランティアで成り立っている編集委員会ですが、今後も編集委員一同で心を込めた紙面づくりに努めてまいりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いたします。